

議会だより

かみやま

第 8 号

2011.2.15

12月定例会



厳寒の盆地状田んぼに揺らぐ、温かいローソクの灯り「鬼籠野灯りのオブジェ」(2011.1.2)

発行／神山町議会 [〒771-3395 徳島県名西郡神山町神領字本野間100 TEL.088・676・1511 (IP2002) FAX.088・676・1100

12月定例会

神山町議会



12月定例議会は平成22年12月13日から21日まで9日間の会期で開催しました。

提出議案は、補正予算5件、条例の制定及び条例の一部改正4件、町道路線認定1件、工事請負契約の締結1件、神山町総合計画1件、規約の変更1件、計13議案を審議しいずれも原案通り可決しました。

一般質問では3議員が登壇し（5ページから掲載）それぞれ町の考えを質問しました。

12月補正予算

一般会計補正予算並びに4特別会計補正予算が提案され、総額で696万円が追加されました。

一般会計は、主に高齢者等タクシー助成事業、ふるさと振興基金積立金、老人ホーム非常用発電機設置購入費等の補正となっております。

一般会計	41億2,832万円	(1,700万円)
国民健康保険特別会計	10億4,383万円	(524万円)
簡易水道事業特別会計	1億2,247万円	(156万円)
介護保険特別会計	8億6,413万円	(△104万円減額)
後期高齢者医療特別会計	1億607万円	(△1,580万円減額)
(左は予算総額、()内は補正額)		

主な内容

高齢者等タクシー助成事業2月より実施される

◎高齢者等タクシー助成事業	228万円
(2月～3月分)	
◎ふるさと振興基金積立金	1,000万円
◎老人ホーム非常用発電機設置購入費	420万円
◎県単林道工事	200万円

行政報告

■町長から町政の報告があった。その概要については、次のとおりです。

■ふるさと納税について、大阪市在住の中野幸子さんから神山町のために役立ててほしいということ、十一月に多額のふるさと納税をしていただいた。平成十九年にも多額のご寄付をいただいている。

■平成二十三年当初予算については、国の二十三年度の概要要求で社会保障費の自然増に対応する地方財源の確保を含め、一般財源総額について実質的に平成二十二年度の水準を下回らないよう確保する考え方が示されたところです。

■地方交付税については、別枠加算の廃止が決まれば、本年の国勢調査により人口減少が確実である本町にとり更なる地方交付税の大きな減少が見込まれる。

■町税は、減少傾向が続くことが見込まれることから、歳入につきましては今後更に厳しい状況が続くことが予測される。

■歳出は、公共施設の耐震化について、学校の耐震化を計画的に進めているが、今後は学校以外の公共建築物についても耐震化を計画的に進め

ることとし、来年度から耐震診断に着手し、町施設の安全性を確保したいと考えている。

■防災行政無線については、十五年を経過し老朽化が進み、安定的な運用ができなくなっておりますので、来年度基本設計に取りかかり、早い時期に更新したいと考えている。

■第四次神山町総合計画の策定については、今も本町では、著しい人口減少と少子高齢化への対応、農林業を初めとする地域経済の再生、身近な生活交通の確保、効率的な行財政運営など、さまざまな課題を抱えている。このような行政課題に的確に対応し、魅力ある町づくりを進めていくために、この度、平成二十三年度から三十二年度までの十年間の町民と行政の協働のまちづくりの行動指針となります第四次神山町総合計画を策定している。

■町長等の給与は、平成二十三年度も平成二十二年度に引き続き、町長二〇パーセント、副町長一〇パーセント、教育長五パーセントの削減をさせていただく。

■神山町の水道は、近い将来、町内の施設を全て統合し、一つの簡易水道とする計画をいたしていることから、この機会に町内の水道料金を統

一させていただく。

■ 神山町元気力創出助成事業について、町づくりの推進を支援するため、平成二十年度から五事業を採択実施し、成果を上げてきたまほろばの里づくり助成事業が平成二十二年度と二十三年度で終了する。平成二十三年度からも引き続き町民と行政の協働による町づくりを推進いたしたく、地域元気力創出助成事業を創設し、助成金を交付し、取り組みに対し支援をしたい。

■ 神山町高齢者等タクシー運賃助成事業ですが、この事業につきましては、高齢者や障害者等の方々々が住みなれた神山町の地域で自立した生活が送れますように、通院あるいは買い物、あるいは金融機関等に利用したタクシー運賃を助成し、生活支援をいたすものです。二月から「のらんでサービス」と命名し施行するものであり、日常生活の生活交通の助成を図りたく、今回の補正予算で来年二月と三月分、一カ月分のタクシー利用助成事業委託料を計上している。

■ ワクチン接種助成については、現在、子宮頸がんを防ぐため、町内の中学三年生の女子全員に子宮頸がん予防ワクチンを全額公費負担で接種いたしておりますが、接種対象者の中

学一年生から高校一年生までに拡大をいたします。また髄膜炎を防ぐためにヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンの接種費用を〇歳児から四歳児を対象に全額助成をいたします。

■ 県道神山鮎喰線の南馬喰草地区の改良整備については、県に整備を要望いたしておりますが、この度、本年度測量などの現地調査費が計上されることとなった。



県道神山鮎喰線の未改良区間
(阿野字南馬喰草)

■ 地域活性化交付金については、国の補正予算に盛り込まれた地域活性化交付金の本町の交付限度額は、地域振興に充当します。

■ JA名西郡のすだち選果機と、阿野山センターのすだち選果機と、阿野選果場の梅選果機の老朽化が進んでおりますことから、この度、神山セン

ターにすだちと梅の兼用選果機の導入を計画し、現在、県を通じて国へ要望している。などの報告があった。

諸報告

● 平成二十二年定例監査結果報告並びに、十一月分の例月出納検査報告
監査委員から職員の不祥事続発、町営バスの赤字経営対策、町税等の徴収努力、有害鳥獣駆除対策、財産管理等においてそれぞれ指摘、並びに一般会計及び特別会計に属する出納状況を出納機関の諸帳簿、指定金融機関提出の収支日計表、証憑書類と照合した結果、過誤のないことを確認したこと報告があった。

● 第五十四回町村議会議長全国大会の出席報告
議長から十一月十七日から十一月十九日まで、東京NHKホールで開催された全国大会に、出席したことについて報告があった。

議員派遣報告

平成二十二年国道一九三号倉長トンネル開さく促進期成同盟会総会ほか七件について報告があった。

条例制定・改廃等

● 町長等の給与の特例に関する条例の一部改正

月額町長七十四万六千円、同じく副町長五十九万七千円、教育長の給料は、月額五十四万一千円と定められている。本条例の改正は、期間を平成二十三年四月一日から平成二十四年三月三十一日までの一年間と改め、平成二十二年と同様に町長は二〇%、副町長は一〇%、教育長は五%基礎額に乗じて得た額を減じて得た額を給料月額と定めるものです。このカットにより、本来の額に比べ約二八三万円程度の歳出削減が図られる。
(賛成多数可決)

● 定住自立圏形成協定に関する議会の議決すべき事件を定める条例の制定

定住自立圏形成協定は、人口定住のために必要な生活機能の確保に向けて、徳島市と周辺市町村が「一対一」で連携する取り組みについて、役割分担していくことを明示し、議会の議決を経て定める協定。この形成協定の締結は、国の定住自立圏構想推進要綱で、定住自立圏形成協定の締結、変更及び廃止については、地方自治法第九十六条第二項に基づく議会の議決を経なければならないとされているので、今回、定住自立圏形成協定に関する議会の議決すべき事件を定めるものです。

● 神山町簡易水道事業給水条例の一部改正 (賛成多数可決)

平成二十一年から平成二十二年にかけて中央簡易水道から青井夫への連絡管の布設等を行い、本年九月に県の認可をいただき平成二十三年三月に青井夫簡易水道と青井夫飲料水供給施設を中央簡水に統合する予定としており、平成二十八年度中には町内全ての簡水及び飲供を統合しなくてはならないため、今回、給水区域の変更と水道料金の改定を行うものです。 (賛成多数可決)

● 神山町教職員住宅使用条例の一部改正

現在、今井団地は六戸ありますが、そのうち二戸の入居となっております。また、短期的には、芸術家が三カ月程度入居しておりますが、今後も入居者の増は見込めませんので、教職員の入居に支障がない範囲で有効利用を図るものです。 (賛成多数可決)

議員発議案

● TPP(環太平洋経済連携協定)への参加の撤回を求める意見書の提出

政府は、TPPへの参加検討を撤回すべきとの地方の声を無視し、先

般、「関係国との協議を開始する」旨の基本方針を決定の上、本年六月頃までに参加の是非を決めるとした。今回の政府の決定は、農山漁村のみならず我が国の行く末に取り返しのつかない深刻な影響を及ぼすと大いに憂慮するものである。よって政府に対しTPP反対を明確に表明するとともに、政府がマニフェストで掲げた農林漁業と農山漁村の再生を責任をもって実現することを強く求める意見書を提出するものです。 (賛成多数可決)

● 尖閣諸島をはじめ我が国の領土領海を守るための意見書の提出

尖閣諸島をはじめ我が国の領土領海を守り抜くため①尖閣諸島に関して、早急に諸般の現地調査を行うと共に、船舶の安全航行と漁民の安全操業のため、灯台の設置及び避難港の整備などに取り組むこと。②現在、外国漁船による悪質な違法操業が繰り返され、日本の漁場が奪われている。その対策のために関係省庁による警備体制を強化し、直ちに拿捕を可能とする関係法令の整備をはかること。③現在、自衛隊には、平時において領土領海を守るべき法的根拠が無いため、速やかに領域警備のための法制度を確立すること。を意見書として提出するものです。 (賛成多数可決)

て提出するものです。 (賛成多数可決)

● 議員派遣

徳島市町村トップセミナーについて、議員を派遣することに決定した。

● 委員会の閉会中の継続調査

各常任委員会、特別委員会における案件について、閉会中も引き続き調査を行うと決定した。

請願・陳情等

● 請願書

尖閣諸島をはじめ我が国の領土領海を守るための請願
提出者 神山町阿野 米田末子
紹介者 坂口一之議員

(賛成多数可決)

● 請願書

神山町議会議場における国旗・自治体旗掲揚に関する請願
提出者 神山町阿野 米田末子
紹介者 坂口一之議員

以上二件については、採択となりました。

● 陳情書

電気整備工事・管設備工事の分離発注推進について陳情
提出者 社団法人 徳島県設備業協会 会長 栗本利幸

この件については、資料写し配布

その他

● 平成二十二年森林整備加速化・林業飛躍事業(不造公共施設整備) 名西消防組合神山消防署新築工事 請負契約の締結

契約金額 一億一八五万円
契約の相手方 株式会社島谷建設
代表取締役 島谷 速敏

● 第四次神山町総合計画 (賛成多数可決)

第三次神山町総合計画が、平成二十二年度で目標年次を終了します。新たな視点と将来展望による新しい第四次総合計画を策定するものです。

本計画は、町づくりの将来像、目指す姿を示し、行政運営の指針となる町政の最上位の計画であり、町民と行政による協働のまちづくりを進める羅針盤となるものです。

総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画から構成しており、基本構想は、まちの将来像と将来フレームを定め、将来像実現に向けての施策方針と施策体系を示しております。計画期間は一〇年間。

基本構想は、町民一人ひとりが、神山町民であることに真に誇りを抱き、さらに神山に魅力を感じ移り住

一般質問



西崎 哲夫 議員

む人の元気も加わり一体となって世界に誇る神山町を創造していく町づくりを目指すこととしている。このことから将来像を「元気がキラリ咲き誇る 神山町」と定めている。

(賛成多数可決)

●徳島県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の名称変更に伴う徳島県市町村総合事務組合規約の変更

新 板野東部青少年育成センター組合
旧 板野東部青少年補導センター組合
(賛成多数可決)

●町道路線の認定

主要地方道神山鮎喰線より分岐、佐那河内府能に至る一、八九〇メートルを「川東府能線」として認定した。
(賛成多数可決)



町道に認定された川東府能線

再問

再問 答 町長 全品完全自由化ということになると輸出品目の工業製品等非常に強い分野については、大きなメリットがあると思う。しかし農業分野にあっては大きな打撃がある。特に食糧自給率等についても40%から13~14%に落ち込む推計が出ている。農業従事者が全国平均65歳以上という事で、大きな意欲の低迷と生産の打撃を受けると思う。本町の農業従事者も平均70歳に近いということで非常に苦しい状況が到来すると思われるので、私は参加については反対です。

問 ① 中山間地帯に位置する自治体として、TPP環太平洋経済連携協定への参加の可否について、その見解と理由、又参加した場合の本町への影響は。

韓国が自動車、IT産業で、EUやFTA連携で日本より先行している。町長のいう町村会農業関係組織、団体等が反対している理由等もよく理解出来るが、この問題について広い視点での多面的な見方も必要ではないか。

問 ② 高齢化が急速に進行する本町にあつて、柚子(搾汁用)の生産は専業としてでなくても、高齢者の年金の補的収入作目でもある。本年度の出荷調整や価格の低迷は回復の見込みもなく、年金補的作目の当面する課題について、農業指導班会戦略会議等で需要喚起対策等の取り組みが真剣かつ早急になされるべきではないか。特に今年是个選出荷がなくなった事でも問題は大きい。神山町だけの問題ではない、県内中山間地域で連携して対応していくことが必要ではないか。

答 町長 神山町の柚子の生産状況は、一、生産部会がない。二、JA名西部農協の推奨作物ではない。三、組織だった生産体系がとられていない。が故に木頭とか高知馬路村等々と価格差や課題が出てると分析する。2007年あたりから香酸柑橘の酢ブームがあり、

特に柚子は加工等に大手の製品が回り、国産より60%位安い原料が韓国から輸入されている現状がある。柚子の生産農家は海外からの影響をもつでに受けている。柚子の消費拡大は木屋平等でやっている貯蔵の可能性や、皮を使った商品開発等に農業指導班会等で検討していきたい。県内産地との連携については、先ずJAが横の話し合いがなされなければ前へ進めないかと思う。

再問

再問 答 町長 県内連携については、JA任せでなく積極的な行政対応も必要でないか。農業指導班会や戦略会議の機能強化は緒に就いたようであるが、産業建設課の農業担当部門の強化も必要でないか。

答 町長 質問の年金の補的作目については、再出発した農業指導班会戦略会議等で対応していく。軽量野菜についても現在作目について具体的な対応をはじめている。役場の農業担当部門の強化については指摘の通りかと思う。課の再編や行革の中で、ちょっと荒っぽさが見えたかなと思っている。こうした担当部門はある程度の特長な特別チームがあってもいいのかなと思っている。強化については今後考えていく。

問③

11月27日の雨水被害町有林の雑木苗植栽は企業、一般、高校生、中学生が一体になっての取り組みは意義がある。神山の人工林は何世代にも遡って、長い年月と勤勉な取り組みによって成し得られた結果である。行政にあっても官行造林事業等で深山、山の頂きまで植林がなされた。しかしこの人工林は多面的に課題山積している。今回の雨水被害も、人工林に対する自然の厳しい警鐘ではなかったかと思われる。今後あらゆる立場の人達により、息長く継続していくことが大切でないか。特に次世代への引継ぎが重要で、今回参加出来なかった小学生にもこの活動の一端担ってもらうために、菊作りの様な要領で山行の雑木苗の育成に取り組んでもらうてはどうか、又今回の議会で上程されている、一般会計補正予算歳入に雨水被害に対する町有林災害共済金322万6千円が計上されている、この共済金を少しでも人工林の自然回帰のための樹種転換活動に充たすべきでないか。

答

河野教育長

小学校ではあらゆる教育活動に於て、生命がかげがえのないものであること、他の生命を尊重することや、美しいものに感動する心、自然の偉大さを

知り自然環境を大切にすることを、育成する情操教育は学校教育の目標の大きな柱である。現在でも小動物の飼育や花づくり、野菜づくり等を取り入れている。雑木苗の育苗は一人一鉢運動のように小学校の教育活動に取り入れていくことは可能であると考えている。今後、学校長はじめ関係機関との意見を聞きながら検討してまいりたい。



雨水被害後、伐採されボランティアによる雑木苗の植栽

答

町長

樹種転換は継続しなければ意味がない。ご指摘の町有林共済保険金については、当然山に使うべきで出来るならば樹種転換に使いたい。当初の私のマネーフレストの中にも樹種転換の項目があり、やっと一緒に就いたと思う、町としても町費を投入しながらやっていきたい。

再問

小学生の育苗活動は育苗指導や苗の山行き植栽手入れ等々はあくまで

行政主導でやるべきで学校現場に負担を掛けるべきではないと思う。



細井 成富 議員

問①

地域医療について質問いたします。町が医療費の補助を行っているインフルエンザ接種について、地域に医療機関のない上分、左右内、鬼籠野、阿川、広野に町内の医師による出張診療を、各地区の公民館や集会所で日にちを決めてして頂けるように要請できないか。医療機関の無い地域のお年寄りや交通弱者の方は、神領や下分まで来るのに大変不便を感じています。町はこの問題にどのように対応されるかお尋ねします。

答

河野健康福祉課長

インフルエンザ予防接種は、予防接種法の改正により、掛かり付けの医師による個別接種が事故防止に有利であり、個別接種が原則となっている。昨年度は新型インフルエンザの大流行があり、町では1歳から中学校三年生を対象とした集団接種を実施した。

法改正後、町内の先生方に集団接種から個別接種にお願いしたという経緯があり、現時点では出張診療の要請はしていない。

今後、町内医師団の先生方に相談申し上げ、インフルエンザ予防接種の集団接種が可能か検討したい。

問②

住民の要望に応える事と集団接種から個別接種に移行した整合性の説明をして下さい。

答

河野健康福祉課長

できる限り町民の要望に答えたいが、前提として町内の先生方の意向等も集約しなければいけない。

提起

地域医療の充実は、市町村の問題であると同時に県の問題でもあり、また県と市町村が連携して地域医療を充実させる必要があると考えています。

現在は、町内にある医療機関と連携しながら、へき地医療の新しい形の診療所をつくることへの努力を要請します。



木元 史幸 議員

問① 統一地方選の日程が発表された。三選への出馬はあるのか。

答 町長
町政運営に対し厳しい意見があることも承知している。不退転の気持ちで出馬をする。

問② マニフェスト点検
運営について

答 町長
給与カットについて、町長20%、副町長10%、教育長5%、約2800万円のカット。

問③ 安心安全について。

答 町長
(一) AEDの設置は、公共施設に全て設置をした。
(二) 公共施設の耐震化については若干遅れ気味である。
(三) 2校が発注済、2校が準備中である。
(四) 自主防災組織については、30%の目標には届いてない。
(五) 防災無線の個別受信機の更新は進んでいるが、本体施設の更新を

考えていかなければならない。火災警報機の世帯配付を実現した。

問④ 子育て支援について

答 町長
(一) 乳幼児医療費助成については現在は中学生卒業までとなっている。
(二) 妊婦の健康診査については14回となっている。

(三) 学童保育の充実ということについては、2カ所に設置されている。すだちこくらぶ(神領)では寄井座の指導により、伝統芸能の継承についても学んでいる。

(四) インフルエンザの予防接種の無料化、ヒブワクチンの〇歳から四歳までの無料化、子宮頸ガンについては高一まで実施。

問⑤ 農業振興について

答 町長
(一) 農業指導班会戦略会議が立ちあがり県、JA、町が一体となっている場ができた。
(二) 遊休農地の対応については、

新たな組織団体が必要となってくるのかなと思う。

問⑥ 交流人口の増大について

答 町長
(一) 移住交流センターで、30人余りの方が移住している。
(二) 県の観光協会調べで、本年には、100万人に届く、森林公園では平成20年度で13万人を超えている。

神山温泉、道の駅では両方合わせて5億円に近づいている。

交流人口を増やすには、各地域でイベント等をやっていたい。地域助成制度、元気力創出事業を創設したいと、考えている。

問⑦ 課題克服にむけての決意

答 町長
(一) 人口増につながる施策について。
一戸建て、神山産材の木を使った、菜園付きの住宅を是非やらねばと思っている。

(二) 住民との協働について
新たな公の時代である。一部指定

管理がされている。例えば公民館を地域の方々に担っていただく。地域の拠り所として、人材の育成に力を入れる。

(三) 職員能力アップについて

答 町長
接遇マナー、事務能力、交渉力、問題解決能力、コミュニケーション力、アップのために研修を積ませたい。

問⑧ 産業振興について

答 町長
(一) 気候変動に強い品種づくりに、試験場、県等に申あげている。(スタチの品種について)
(二) 担い手の育成、新規就労者の受け入れ体制づくりができればと考えている。

問⑨ 学校問題について

答 町長
今後の生徒数の推移を見ながら、小中一貫校なのか、小学校2校、中学校1校が進めていきたい。

平成22年第2回臨時議会

第2回臨時議会は、平成22年10月27日に開催しました。
提出議案は、補正予算1件を審議し、いずれも原案どおり可決しました。

補正予算

一般会計補正予算(第4号)が提案され3億6123万円が追加されました。主に神山消防署建設工事、広野小学校、神山中学校耐震改修事業の追加となっております。

一般会計 41億1,132万円
(3億6,123万円)

上段は予算総額 () 内は予算額

主な内容

- 神山消防署建設工事 4,000万円
- 広野小学校耐震事業 1億7,800万円
- 神山中学校耐震事業 1億3,800万円



広野小学校



神山中学校

平成22年第3回臨時議会

第3回臨時議会は、平成22年11月26日に開催しました。
提出議案は、条例の一部改正4件を審議しいずれも原案どおり可決しました。

条例制定・改廃等

● 職員の給与に関する条例等の一部改正

人事院の給与改定勧告により、町においても地域の実情を踏まえ、国の取り扱いを基本として対応することにし、関連条例を改正するものです。

ポイントは、月例給の平均改定率○・一九%の引き下げと、期末勤勉手当の支給月数を四・一五月から○・二月分引き下げ三・九五月分とするものです。

(賛成多数可決)

● 町長等の給与に関する条例の一部改正

本改正は、人事院勧告の趣旨や国の取り扱い方針を踏まえ、関連する条例を改正するものです。

この改正は、期末手当の支給月数を三・〇五月分から○・一月分引き下げ二・九五月分とするものです。

(賛成多数可決)

● 神山町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部改正

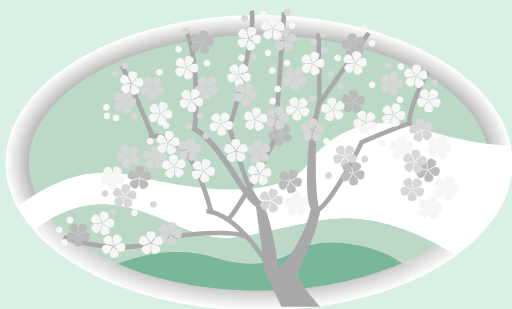
町長等の給与に関する条例と同様に、同じ改正をするものです。

(賛成多数可決)

● 神山町議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正

特別職の改正、勝名地区各町村の対応等を参考に改正するもので、期末手当の支給月数を三・〇五月分から○・一月分引き下げ二・九五月分とするものです。

(賛成多数可決)



行政視察など報告

第五四回町村議会議長 全国大会に参加して

平成二十二年十一月十七日、東京のNHKホールにおいて第五四回町村議会議長全国大会が開催され神山町議会議長、事務局長が徳島県議



全国大会で議長を務めた徳島県町村議会議長
会長 松茂町 一森康雄氏(向かって右側)

長会の十六町村議長、事務局長と共に参加した。

大会では、議会人は一致団結して、果敢に行動していくことを誓ったの
大会宣言があり、地域主権改革の実
現を期する他十三の決議が採択され
た。また、地域主権改革の実現に関
する特別決議、町村税財源の充実強
化に関する特別決議、医療保険制度
の抜本的見直しに関する特別決議、
森林資源の保全に関する特別決議の
四特別決議が採択、要望二十二項目、
四国地区からの「四国8の字ネット
ワーク」のミッシングリンク解消及
び本州四国連絡高速道路の通行料金
に関する要望など各地区から出され
た九項目の要望が採択された。

(議長 山本 充良)

平成二十二年徳島県 町村議会議長会役員研修

第五四回町村議会議長全国大会出
席に合わせ徳島県議会議長の町村議
議長会役員研修があり十一月十八日
長野県小布施町議会、十九日は軽井



長野県小布施町で通年議会について説明を受ける

沢町議会を訪問し研修を行った。小
布施町議会では、議会活性化の取
組みとして通年議会を開催している。
通年議会実施要綱の説明を受けた。
また、軽井沢町でも通年議会を試
行中とのことで通年議会制導入に向
けての経緯などを軽井沢町議会内堀
次雄議会運営委員長から説明を受け
た。

「通年議会とは」

議会の定例会は年4回開催され、
それぞれ定例会ごとに会期が決まっ
ていた。通年議会は、この定例会を
年1回とし、会期を1月から12月ま
での1年間として、本会議や委員会
が随時出来る。

「本会議はどのように開催されるか」
議会は年4回町長の招集で開催さ
れているが、通年議会となると町長
が年1回議集を招集するだけで、あ
とは必要に応じ議長が本会議の休会
と再開を繰り返す。

「通年議会になると、どう変わる」

本会議がいつでも再開できるので、
緊急に議案等の審議が必要とな
ったときや意見書の提出、また会
期中に制限されていた委員会活動が
通年になることで活発になるなど、
議会が柔軟に対応でき効率の良い議
会運営が図られる。

(議長 山本 充良)

第51回四国地区町村議 議長会研修会に参加して

昨年10月14日(木)から15日(金)
まで勝名地区(石井・神山・佐那河
内・勝浦・上勝)の議長、副議長10
名と共に石井町から高知市文化プラ
ザへと研修に向かった。

13時より「超高齢化社会」住民は
どうしたいのか」と題し朝日放送の
報道ステーションにも出演している、
さわやか福祉財団理事長で弁護士
の堀田力氏の講演があり、ドイツ、オ
ランダが世界で1番目に介護保険制

度を導入したこと。また昔は寝たきり10日、今は寝たきり3年、となり家庭介護は難しく、介護するにも体力がなくなると、介護する愛情がなくなる。そのため虐待もおきこえる。そのためには介護保険制度は必要である。また今の介護保険制度の問題点などを話された。

15時より時事通信社政治部長 山田恵資氏が長年の国会記者の経験として議員の裏話や時の人仙石官房長官の人となりを私見を交えての講演があった。

翌日高知県、佐川町（さがわと読まずさかわと濁らない）を「佐川まちなみ再生プロジェクト」を目的に訪問。平成15年金沢、萩、彦根、高山、京都と共に国の事業許可をうけ特色ある街づくりをめざしている。高知県は酒豪の県として知られているが、その中でも有名な銘柄の司牡丹の会社がある町である。江戸中期より酒造業を営み創業者竹村家の建物を中心に美しい街並みを保存している、世界的に有名な植物学者牧野富太郎もこの町の出身者であることから文化の町としてまた桜も有名なようので3者（街並み・文化・桜）を組み合わせて街づくりをしている。高知県内の女性に県内で行きたい市

町村はどこかアンケートをとると常にベスト3に入っていることの理由も街並みを散策するとうなずけるものであった。

街づくりはある程度歴史に裏打ちされたものがないと、にわか作りには似合わないものであると感じたものであった。

（副議長 森本吉治）

佐那河内村議会と 交流研修会開催

平成二十二年十一月二十四日、佐那河内村役場において佐那河内村議会・神山町議会の研修会が行われ両議会議員と事務局が参加した。

この交流研修会は、毎年行われ両議会のそれぞれの持つ課題をテーマに開かれ今回で十回目となった。

佐那河内村とは、地域情報化基盤整備事業、鳥獣害防止広域対策事業等広域で事業を遂行しており、議会としても町村間の意見が重要視されることである。

今回の研修は、高齢福祉を取り上げ、講師に特別養護施設健祥会ハイジ施設長 盛川浩司氏による「介護の現場から」と題し講演があった。介護保険導入経緯、介護保険の段



佐那河内村議会・神山町議会交流研修会

階基準、医療と介護の違い等の説明を受け、各議員熱心に講義を受けた。

（議長 山本充良）

名西消防組合議員視察 研修に参加して

本年10月28・29日の2日間、名西消防組合主催による名西消防議員視察研修が実施され、消防議員10人・事務局1人が滋賀県東部にある滋賀県愛知郡広域行政組合消防本部を現地視察しました。

愛知郡広域行政組合消防本部は東

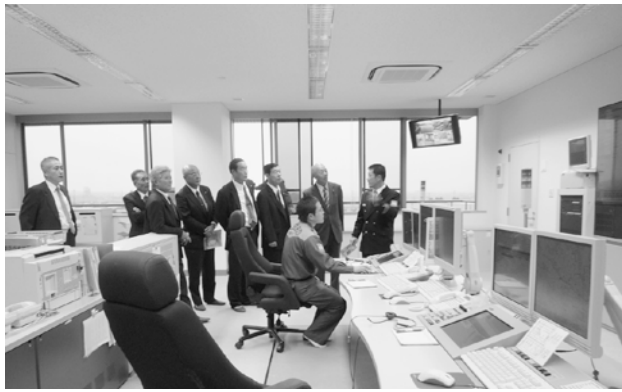
近江市と愛荘町の一市一町により組織された一部事務組合の組合消防である。

職員数は61人、人口34,903人、財政規模は平成21年度決算425,315千円で名西消防組合とほぼ類似しています。

平成21年度出動状況は、火災8件（建物3件、車両4件、その他1件）、救急1,269件（急病730件、交通事故184件、一般負傷154件、転院搬送61件、その他140件）、救助出動については、郡の西部を南北に国道8号線、中央部を南北に名神高速道路と国道307号線が横たわっている事から交通量が多く、救



整備された高機能車両



消防指令室

急出動33件中25件は交通事故によるものとなっています。
 庁舎建設費に係る総事業費1、279,000千円（用地費除く）、建物総延べ面積3,622㎡、他にヘリコプター場外離着陸場を有し大規模地の自然災害に備えた対策がとられている。

庁舎棟1階玄関ホールに設けられた防災コミュニケーションスペースは各種資料を展示して地域住民の方々が身近に体感しながら防災意識を深められるような施設に工夫され、また、防火衣ロッカー室は出動時に迅速に着衣できるよう回転式装備庫と効率

化が図られている。

2階の通信指令システムは、携帯電話からの情報をGPS機能との連携により、誤差が64m以内で検索可能なシステムを採用し機動力アップに繋げている。これらは、平成17年2月より供用開始している。

この視察で特に印象に残ったのは、消防事業だけでなく、上下水道、不燃ゴミ、斎場事業を取り扱っており、24時間体制を生かした水道事業、斎場事業を住民サービスのため実施されていることである。

消防広域化再編にも取り組んでおり、東近江市には市町合併により二つの消防本部が管轄するという二重行政状態の運営方式が解消でき、県内の広域応援ブロックと一致することなどから、東近江行政組合消防本部との広域化が望まれており、これが一本化されると滋賀県が推進する常備消防の広域化の方向性と合致することになる。

今回の研修を通じ地域住民の生命、財産を守るための設備の充実と機能強化は必要不可欠であることを再認識すると共に、この度の研修を通じ今後の消防議会活動に活かしていきたいと考えています。

(名西消防議会議長 細井 成寛)

名西消防組合平成22年 第2回定例組合議会

第2回定例組合議会は、平成22年12月24日に名西消防組合本部で開催しました。

本定例会では名西消防組合条例の一部改正（専決1号から7号）7件、平成21年度一般会計歳入歳出決算の認定、平成22年度一般会計補正予算を審議しいずれも原案どおり承認、認定、可決しました。

承認、認定、可決しました議案は次のとおりです。

専決処分事項7件については名西消防組合条例の一部改正の承認、平成21年度名西消防組合一般会計歳入歳出決算認定は歳入総額4億9,739万円、歳出総額4億5,736万円、歳入歳出差引額4,003万円、繰越明許費繰越額3,150万円、実質収支額854万円の認定、一般会計補正予算は924万円を追加し4億9,154万円を可決しました。

議会を傍聴しませんか！

皆さんが選んだ代表が議場でどんな発言をしているのか自分の目と耳でお確かめ下さい。

どうぞお気軽にお越し下さい。

定例会は年4回（3月・6月・9月・12月）に開かれます。

日程・手続き等は議事事務局へお問い合わせください。

神山町議事事務局

TEL 676-11511

【P2002】

次の定例会は

3月上旬です。

議会だよりの投稿を

募集しています。

身近な「出来事」や「情報」など、お気軽にお寄せください。投稿は自由です。提出された投稿は、本委員会では協議検討し、承認を得たものとなります。

議会だよりの発行日は2月・5月・8月・11月の年4回を予定しています。

提出・問い合わせ先

神山町役場内 議事事務局

TEL 676-11511

【P2002】

あの質問は

どうなっているの



としており詳しくは交付要綱で述べられている。助成金交付の上限は100万円下限は5万円である。

(質問 西崎 哲夫議員)

1000円を引いた差額、3000円以上の場合は2000円を助成するというものです。買物、病院通いと高齢者等にとっては、非常にありがたいものになるのではないのでしょうか。是非ご利用して下さい。

(質問)

森彦富議員、樫本雄一議員、森本吉治議員が、「コミュニティーバスや、制度の導入、又、タクシー代等の補助ができないものかと質問。」

継続して運営に関して何らかの助成が出来ないか。

(答) 町長

まほろばの里づくり助成事業終了団体のみならず、他の団体等にも使い勝手のいいような助成事業を創設していきたい。

(展開)

地域元気力創出事業助成金制度施行される。

町民が元気なまちづくりを推進するため、自ら考え行動する町民の主体的まちづくり活動を支援し、新しい地域活動の取り組みの契機を提供することにより、町民が本来持つ力を再生し及び活性化することを目的

(展開) この度、二月より「高齢者等タクシー助成制度」ができました。(愛称、のらんでタクシー)

70歳以上で公共交通機関の利用困難な人、介護保険支援1以上の入、身体障害者手帳の一級及び二級の人、他精神障害者手帳の一級、二級の人を対象に町内タクシー業者を利用することとし、2000円以下の場合半額、2001円〜3000円の場合は運賃から

(問) 現行のまほろばの里づくり助成金制度により、町内各

地域で地域活性化の活動が展開している、この制度は地域活性化の起爆として評価出来るが、助成期限が経過すると当然継続しての活動が苦しくなるのが実情である。

地域活性化の活動は創出することも住民の協働、労力、知恵、資金等と大変なエネルギーが必要である。

しかし活動の継続も、創出と変わらぬ条件とエネルギーが必要である。助成終了後も何らかの制度で



農家の息子として

読者からの寄稿



農産物生産グループ
「みどり会」事務局
鬼籠野字一ノ坂
佐々木 宗徳

農家の長男として生まれ、なんとなく後継ぎとして家の農業を24歳の時に始めました。初めは、何も分からず父の言われた事を、日々こなしていました。今考えて見ると、給料なんて貰える仕事なんてしてなかったと思います。

転機は、結婚した時、友人に「お前見たいな農家に嫁に来てくれるなんて奇跡やぞ」と言われ今おかれている農家現状について真剣に考えるようになりました。農業は「きつい」「稼げない」仕事と思っている人がほとんどでしょう。確かに、農繁期はきつい！！朝は早くから夜遅くまで休み無しで作業します。

でも、農繁期と言っても長くて一カ月半くらい、後は意外とのんびりとです。深刻な事は、「稼げない」って言う事じゃないかな？いくら良い物を作っても農産物は買う人が値段を付け買われますから。ここに、「稼げない」原因があると思う。

でも、私たちが栽培しているすだちは儲かる農産物だと思う。だって、日本一の生産地は徳島！！すだち発祥の地は神山鬼籠野！！貯蔵すだちの出荷量大半は神山産だから絶対儲かるはずなのですが・・・昨年の収穫すだちは、不作で収穫量が少なかったため良い値段で取引されています。しかし今年の予想は豊作年です。何も策を考えずに行くと2年前の豊作貧乏になりかねません。豊作の時は、すだちを売り出すチャンスです。

2年前に、近所のすだちを栽培している先輩に「ダイレクトメールで東京の店にすだちを売り込まないか」の話に私自身も、インターネットで少しすだちを販売していたので、チャンスだと思い参加する事にしました。

まずは、賛同して貰える仲間を集めました。家でばりばりやってる人、常は仕事に行き、休みの日にやってる人、後継者など近所で8人のメンバーが集まりました。現在の農産物生産グループ「みどり会」です。

私は、事務局としてすだちの注文、発送、お問い合わせ担当となりその対応であまり家の仕事が出来ず、家族には迷惑をかけました。

結果は、余り思った量は売れませんでした。すだちについて真剣に向き合い「来年こそやってやろう！！」の気持ちが芽生えメンバーが集まるたびにすだちの談議に花が咲くようになってきました。



昨年からは会のホームページを立ち上げ、ブログですだちの生育状況、イベントなど農作業の合間にすだちファンへ情報を発信しています。少しは儲かる農業へ向かってると思っています。

最後に、私は祖父、父の作業している背中を見て育ちました。今ではその大きな背中を追いかけたい。努力していますがなかなか追いつけません。でも、心中では追いつきたくはない。息子に私の背中は何の様に映っているのでしょうか？大きいかな？今度は、息子に追われるように日々努力したいと思っています。

上分北谷七福踊り

神山町上分の北谷川の両ふちにある字（石本・中峯・名・西久地・立岩・一宇夫・名ヶ平）の七集落が北谷地区と呼ばれている。

北谷地区は、昔から人情厚く、まとまりもよく何の事業も共同で取り組んで来た。

七集落のため七福神にちなんで、七福青年団・七福婦人会等・七福は北谷の代名詞となっている。

七福踊りは、北谷地区に昔から行われていた各字名持ち廻りの地鎮祭りに、各名の踊り上手が七福神に変装して踊ったのが始まりと言われている。

昭和天皇即位の御大典に踊ったのが最後と言われていたが、神山町合併三十周年記念に町民体育館で再現し、郷土芸能伝承の為、上分小学校児童が毎年練習をして、新春芸能大会で、発表していたが、小学校休校で伝承も危ぶまれている。

音頭出しも名地区の竹内春雄氏だけとなり、踊り手は北谷地区の有志

により、どこにか受け継がれている。北谷地区の高齢化に準じて、七福踊り関係者の高齢化が課題でもある。

七福踊りの歌詞

来ませ 上山眺めの四季は

去るに 去られぬ絵巻物

緑したたる あちこち縫うて

清き流れの 鮎喰川

暑さ捨てましよ 神通滝は

昼も来て啼く 都鳥

唄う かじかについ誘われて

宿の川又 結ぶ夢

剣参りの 鈴の音冷し

山に白衣が ちらちらと

剣おろしが 峠になげば

東宮お山は、雪化粧

龍王の山から 北谷見れば

七名揃って 七福神

名では 竹内 大黒神

中峯 西田の 恵美寿神

石本 蔭山 ほろくさん

西久地 神田の 寿老神

立岩 福田の びしゃもんさん

一宇夫 笠原 ほていさん
名ヶ平 石川 弁天さん
七福神が 輪になって
踊れば 笑顔の花がさく

北谷 繁昌と 舞踊る

(伊勢節の節で)



個性豊かに、軽妙洒脱が本領の北谷七福踊り

表紙写真説明

「鬼籠野灯りのオブジェ」

神山町内でも鬼籠野字東分の田んぼは、家屋や大きな樹木もなく、唯一盆地状の風景が展開する。ここで地元の住民団体「鬼籠野輝きフォーラム」により7年前から毎年年末年始に、「鬼籠野灯りのオブジェ」が実施されている。

今回は昨年12月24日、25日と新年2日の、3晩実施された。この行事の光源は、昔ながらのローソクで収穫が終わった約5haの田んぼに、500個のローソクに火が灯され、温かみのある淡い光が盆地状の視界に揺らぐ風情は心打たれる。

60年程前小学生の頃、冬の夜なべ仕事のいろり端で、大人から聞かされた「狸の提灯行列」の話や、寒い冬の晩、点々とした山裾の家の障子越しに洩れる、低燭光の裸電球の温かみのある灯りが重なる。点灯も電飾がスイッチONで一斉に作動するのに比べ、鬼籠野盆地のローソクは寒風の下で、一個一個と人海戦術である。神山でも年末になると各所で、LED主流のイルミネーションが点滅し、クリスマスムードを盛り立ててくれる賑いを楽しみにしている。

しかし、寒さが厳しい山里の空気を削いて冷たく光り点滅する、LEDのイルミネーションもこれだけ数が増えてくると、少々食傷気味に感じている帰省客もいるようでもある。電飾の様な華やかさは無いものの、生きた火が揺らめく盆地の風情は言葉には言い表わせない、温かみと郷愁がある。山里の冬の昔を体験した方々には、是非、一見の価値がある鬼籠野盆地冬の宵の、やさしい灯りの祭典である。

表紙写真 松浦 一郎氏 神領字北



7年前、鬼籠野活性化起爆の、熱い思いを共有した当時の人達



高知市出身
稲垣 恵さん



新春、第一回目は、阿野字長瀬にお住まいの、二十代の清楚な女性です。

今までご紹介してきた方々は家族連れの人達でしたが、今回はお一人でお暮らしで、高知市出身で、高知大学を卒業後、鳴門教育大学大学院を卒業の後、神山アーティスト インレジデンスが切っ掛けでこの地に来られたとの事です。その期間中には全国の美大の人との交流もあつたりと、田舎暮らしを楽しんでいるようです。

現在、長瀬地区の阿部久様宅の一棟をお借りしておられ、目の前に日々変わりゆく鮎喰川の景色や山の自然のうつろいをしっとりと感じておられるようでした。

神山の印象について聞いてみると「閉鎖的でないのに、しっかり田舎が残っている」と、地元民にはない見方でとらえていて、心に残りました。まだ独身とのことですが、良い伴侶に恵まれ、神山にずっといてもらえたらと思えるかわいい女性でした。

議会の動き

- 17日 小学校卒業式
- 11日 中学校卒業式
- 7日～16日 町議会3月定例会
- 3日 名西消防組合議会
- 3月 総会
- 25日 県町村議会議長会定期総会
- 21日 名西消防組合神山消防署起工式
- 15日 町村監査委員協議会第9回定期総会
- 11日 近畿神山会第20回総会出席
- 9日 勝名地区町村議会議員研修
- 4日 勝名地区町村監査委員連絡協議会定期総会
- 2日 2月 トップセミナー
- 24日 議会広報調査特別委員会
- 13日 町議会第1回臨時会
- 10日 成人式
- 9日 消防出初め式
- 1月

編集後記

28人の夢

神山中学立志式に出席し、私の未来、神山の未来について子供達の考え、提言を聞く機会がありました。

職業体験を通じての文集では、誰かのために役立ちたい、笑顔が大切である。物事を成就するには、努力が大切である。子供達の健全な考え方が、基本にあることを、嬉しく感じました。

神山町の暮らしに、愛着度が八割も超えるという、中学生のアンケート結果もある。

この数字を大人達がどう生かすが、問われている。

議会だよりも今号で第八回になり、投稿していただいたり取材にご協力いただいた方々に感謝申し上げますと共に、本議会だよりに多くのご意見をお寄せ下さいますようお願いしています。

(木元 史幸)

